

倉敷市立児島市民病院 病院広報誌

「赤レンガ」

【平成27年・新年度第1号】

発行：倉敷市立児島市民病院広報委員会・地域医療連携室

発行月：平成27年5月



「ドイツの森」のチューリップ畑（当院職員撮影）

赤磐市にある「ドイツの森」では、春になると40万本の菜の花や5万本のチューリップ、ヨーロッパ風のバラ園が来園者を出迎えてくれます。

四季折々の花畑に加え、自家製バームクーヘン工房や、地ビール工房もあり、味覚も満足できるアミューズメントパークです。

（参考：岡山農業公園「ドイツの森」WEBサイト）

巻頭言：

皆様方におかれましてはどのような新年度をお迎えでしょうか？ 新たな生活のはじまりは時としてストレスや心身の不調を引き起こすことがありますので、お身体、ご自愛ください。

<目次>

P. 1 表紙・巻頭言

P. 2 院長挨拶

P. 3 地域包括ケア病棟について

P. 4 「栄養だより」

P. 5 新入職員挨拶

P. 6 連携のひろば（杓永整形外科）

折込資料：「外来診療予定表」等

院長挨拶

平成27年 「パッション、ミッション、アクション」で乗り切る

新年度スタートにあたり、ご挨拶申し上げます。皆様には、昨年度も多大なご支援を賜り、誠にありがとうございました。厳しい医療情勢の中で、やや苦戦した部分もありますが、何とか実り多い一年となり、ありがたい気持ちでいっぱいです。

今年度の秋までには、いよいよ新病院の建築が南駐車場のところへ着工します。また、患者様の診療情報管理の要である電子カルテを最新の高性能のものにし、診療情報管理、医療情報解析など、新病院の診療体制にしっかり対応できるよう刷新する予定です。

先日、第一回市民公開講座（5月23日開催、於ジーンズホール）として、岡山大学の松岡順治先生に「緩和ケアにできること」と題して御講演賜り、多くの市民の方が足を運んでくださいました。大変有意義な講演会になりましたこと、心より感謝申し上げます。これから二人に一人の割合で癌になり、三人に一人が癌で亡くなる時代の中で、いかに幸せに最期を迎えるか、身近で切実な問題です。緩和支援医療は、癌と宣告されたその日から、欠かせない医療技術、サービスで「患者様に寄り添う医療」です。「みんなで支える医療」です。新病院のミッションとして産科医療復活に加えて、こうした緩和ケアを当院の看板の一つにできたらというパッションで、新病院には独立した全個室20床の緩和ケア病棟を最上階、瀬戸内海が展望できる場所に設置いたします。

当院には今後、もっともっとしっかりした医療水準、経営基盤が要求されますが、まずは、夢を描いて、前を向いて（パッション）、皆様のご期待に沿える医療サービスを心得、確認（ミッション）しながら、実行（アクション）あるのみです。必要な医療サービスを確保、向上させるには、お金が必要です。そのために、経営収支をいつも黒字で維持しなければなりません。この地で能力を発揮してくれる新たな人材の赴任を歓迎するところですが、現在の厳しい勤務状況の中、しっかり当院を支えてくれている現職員に感謝して、働き甲斐のある、働きやすい環境づくりを常に念頭に置きながら病院運営をしていきたいと思えます。

少しずつですが確実に皆様のお役にたてる病院を目指して、「児島市民病院ブランド」が少しでも築けるように、職員一同がんばりますので、何卒ご指導のほどお願い申し上げます。

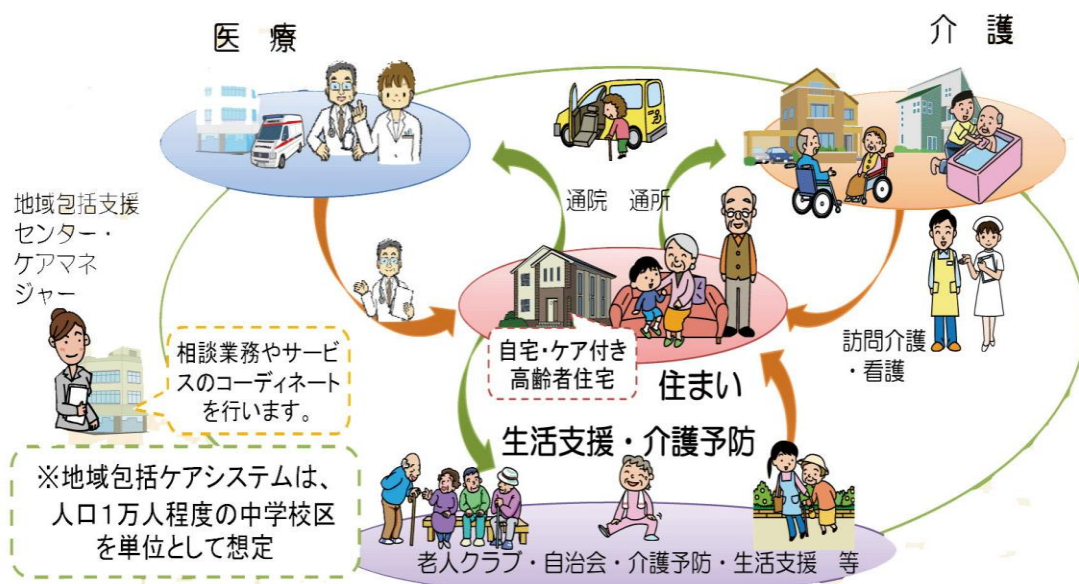
院長 江田良輔

地域包括ケア病棟、順調に稼働しています！

当院4階東病棟に平成26年10月より「地域包括ケア病棟」を38床開設いたしました。開設当初は空床が散見されましたが、入院患者さまが増加する冬季をむかえ、フル稼働（病棟満床）で対応することとなり、現在も順調に推移しております。

「地域包括ケア病棟」は高齢者社会への対応策としての国家ビジョンである「地域包括ケア」の理念に拠り、登場した新たなスタイルの病棟です。「地域包括ケア」とは、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度の要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域ケアシステムのことです。高齢者の急速な増加によりそれに見合うだけのハード（医療機関の数と病床数）が十分に確保できない現状があります。対策として国は積極的に「在宅医療」や「在宅療養」を推進しています。高齢者の方が住みよい地域を創造するためには、適切な医療機関、介護・福祉サービスの活用、及び重症化予防により「ときどき入院、ほぼ在宅」の地域社会を実現することが重要となります。児島地域を住みやすい街とすべく、当院も地域包括ケア病棟をはじめ、在宅医療サービスの提供により、地域の基幹病院として積極的に参画したいと考えております。地域包括ケア病棟の活用は、骨折などの急性期の治療後に、一定期間の入院が確保できるため、患者さま、ご家族はもとより、地域の福祉施設等などからも、歓迎されている状況です。

なお「地域包括ケア病棟」は、入院期限を病棟移動日から50日までとさせていただきます。一人でも多くの患者さまに充実した入院療養の提供と効果的な退院支援を実施するためにも、ご協力をお願いいたします。





栄養だより

「いつまでもおいしく食べるために」

最近、食事中にむせることや飲み込むのに苦労することはありませんか？
もしかしたら、「摂食・嚥下（えんげ）障害」があるかもしれません！

「摂食」とは簡単に言うと「食事を摂る」ことです。細かく分類すると、

①食べ物を目で確認→②食べ物を口の中に入れる→

③食べ物をよくかんで砕いていて、すりつぶして、舌でまとめて塊をつくる流れをいいます。この一連の行為がスムーズにできないことを「摂食障害」と

いいます。また、「嚥下」とは簡単にいうと「飲みこむ」ことで、これがスムーズにできないことを「嚥下障害」といいます。

「摂食・嚥下障害」の原因はさまざまですが、加齢によるところも大きく個人差もあります。これらの障害になると、間違って唾液や食べ物が気管に入ってしまうこと（誤嚥）によって肺炎や窒息を起こすことがあります。また脱水になったり栄養が摂れなくなったりして、食べるのが楽しくなくなってしまう。

こっくん



こうしたことを防止するために「食べる力を高める」

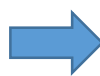
ことと、「飲み込みやすい食事の提供」があげられます。

「食べる力を高める」ためには、誤嚥防止のための咳払いの練習や口の中の清潔を保つこと、嚥下体操の実施、正しい姿勢で食べることがあげられます。

ごほん



一方、「飲み込みやすい食事の提供」では飲み込みに適した食べ物を選択することが重要です。舌でつぶせるやわらかさ、適度な粘り気（粘度）、バラバラにならない・滑らかに通過する形状、密度を均一にするなどの工夫が必要です。また調理における工夫として、「やわらかくする」、「とろみをつけたりまとまりのある形態にする」ことがあげられます。「やわらかくする」工夫として、細かく、繊維に直角に切るなど、切り方を工夫することに加え、形状を小さくすること、煮る・蒸す・つぶす・するなど硬さを調整することができます。「とろみ」をつけるためには、市販のとろみ調整食品を利用することや、片栗粉やくず粉を利用し「あんかけ」にすること、とろみがつく食材を利用することが重要でしょう。



「食べることは命を保つこと」です。飲み込みやすい食事の工夫で、おいしく食べて、ハリのある毎日を送りましょう！

【監修：栄養管理科】

新入職員紹介

今年度より、小児科常勤医師1名、看護科職員3名、薬剤師1名、管理栄養士1名、事務局職員2名を当院の正規職員として新たに迎えることとなりました。

新入職員も含め、今後とも当院を宜しくお願いいたします。

医局（小児科）木村祥子医長：平成27年4月から、故郷児島の市民病院で働くことになりました。予防接種、健診を中心に患者さんに分かりやすい説明をしていけますよう努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。

看護科 浅野賀子助産師（看護師）：4月から産婦人科外来で勤務しています助産師の浅野賀子です。女性のライフサイクル各期に応じた援助ができるように頑張りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護科 福居直美看護師：3階東病棟で勤務することになりました。慣れない業務や科がありますが、みなさまにはやさしく指導してくれています。今後ご迷惑をかけることもあると思いますが、よろしくお願い致します。

看護科 山本真巳看護師：4階東病棟で勤務しています山本真巳と申します。市民病院で勤務し、1年が過ぎました。まだまだ分からない事、出来ない事が多く皆様にご迷惑をかけてしまう事もあるかもしれませんが、頑張りますので引き続きご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

栄養管理科 向井朋管理栄養士：平成26年4月から勤務しております管理栄養士の向井朋です。栄養面から治療のサポートをしていきたいと思っております。食事のことでお困りのことがあればお声かけください。よろしくお願い致します。

薬局 桑田暁子薬剤師：このたび、薬局で勤務することになりました。病院内での仕事は初めてです。皆様にご指導いただきながら、早く仕事に慣れて、お役に立つことができますよう頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

事務局 則本英二主幹：本年4月1日に事務局主幹兼医事栄養係長として配属されました則本と申します。以前は市役所の税務部門に12年間勤めておりました。医療事務の経験がなく、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

事務局 大熊由利子主事：事務局に配属になりました大熊と申します。早く職場になれて、みなさまのお役にたてればと思っています。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（※上記一部職員は前年度より非正規職員としての勤務歴があります。）



医療法人杵永整形外科

院長 杵永俊彦先生

当院は2003年6月に開業し、2010年には北側に新病院を開業し、リハビリ室を拡大してリハビリを充実させております。2011年にはデイサービスセンターを開業し、病院スタッフが交代で、リハビリを中心としたデイサービスを行っております。



院長である私（杵永俊彦）は児島の生まれで、児島小学校・児島中学校に通いました。この児島の地で開業することを決めたのは、生まれ育った町でお世話になった方々に少しでも恩返しが出来たらと思ったからです。

最初の研修の地である岡山済生会病院で、リウマチ専門医である守都先生に師事して以来25年間、関節外科・リウマチを専門に整形外科を勉強してきました。赴任先の倉敷第一病院・鳥取市立病院などではリウマチ専門外来を行い、現在も当時の患者様が遠方から通院して下さっています。また、自分が学生時代に野球やテニスなどのスポーツを行っていたこともあり、スポーツ外来には特に力を入れて行っています。現在当院には8名の理学療法士・作業療法士、5名のセラピストがおり、ストレッチを中心とした運動療法や投球フォームの指導などを専門的に行い怪我をしない身体作りの指導を行っています。

今後もこの児島の医療の発展に少しでも貢献できるよう、スタッフ全員で力を合わせて頑張っていきます。

所在地：倉敷市児島柳田町 596 電話：086-473-0200 診療科：整形外科・リウマチ科

	月	火	水	木	金	土
9：00～12：30	○	○	○	○	○	○
15：30～18：30	○	○	○	○	○	-

休診：土曜午後・日曜日・祝祭日

発行者：倉敷市立児島市民病院

住所：〒711-0921 倉敷市児島駅前2丁目39番地

TEL：086-472-8111（代表）FAX：086-472-8134（連携室直通）

<http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/hospital/index.html>（[児島市民病院](#)で検索）